

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
14	昭和42年 (1967年)	昭和42年7月豪 雨	7月8日～7 月9日	都市部で大きな被害、佐世保 で1時間125mmの大雨。	死者351名、行方不明者18名、負傷者618 名、住家全壊901棟、半壊1,365棟、床上 浸水51,353棟、床下浸水250,092棟など (気象庁技術報告より)
15	昭和41年 (1966年)	台風第24号、26 号	9月23日～9 月25日	同日に2つの台風が西日本と 東日本に上陸。山梨県富士 山麓で土石流により大被害。	死者238名、行方不明者79名、負傷者824 名、住家全壊2,422棟、半壊8,431棟、床 上浸水8,834棟、床下浸水42,792棟など (消防白書より)
16	昭和41年 (1966年)	第2宮古島台風	9月4日～9 月6日	宮古島では長時間にわたり暴 風。宮古島で最大瞬間風速 85.3m/s。	負傷者41名、住家損壊7,765棟、浸水30 棟など (理科年表より)
17	昭和40年 (1965年)	台風第23号、第2 4号、第25号	9月10日～9 月18日	3つの台風が相次いで上陸、 接近。全国で暴風と大雨の被 害甚大。	死者153名、行方不明者28名、負傷者 1,206名、住家全壊1,879棟、半壊3,529 棟、床上浸水46,183棟、床下浸水258,239 棟など (消防白書より)
18	昭和39年 (1964年)	昭和39年7月山 陰北陸豪雨	7月17日～7 月20日	日降水量200mmを超える集中 豪雨。出雲地方で大被害。	死者114名、行方不明者18名、負傷者221 名、住家全壊669棟、床上浸水9,360棟、床 下浸水48,616棟など (消防白書より)
19	昭和38年 (1963年)	昭和38年1月豪 雪	昭和37年 (1962年)12 月～昭和38 年(1963 年)2月	北陸地方を中心に大雪。	死者228名、行方不明者3名、負傷者356 名、住家全壊753棟、半壊982棟、床上浸 水640棟、床下浸水6,338棟など (消防白 書より)
20	昭和37年 (1962年)	梅雨前線による大 雨	7月1日～7 月8日	関東以西の各地に大雨、佐 賀県で大規模な土砂災害。	死者110名、行方不明者17名、負傷者114 名、住家全壊263棟、半壊285棟、床上浸 水16,108棟、床下浸水92,448棟など (消 防白書より)
21	昭和36年 (1961年)	前線、台風第26 号	10月25日～ 10月28日	西日本・中部・関東で水害、 大分県では電車が埋まり多数 の死者。	死者78名、行方不明者31名、負傷者86 名、住家全壊234棟、半壊444棟、床上浸 水10,435棟、床下浸水50,313棟など (消 防白書より)
22	昭和36年 (1961年)	第二室戸台風	9月15日～9 月17日	暴風と高潮による被害、室戸 岬で最大瞬間風速84.5m/s以 上。	死者194名、行方不明者8名、負傷者 4,972名、住家全壊15,238棟、半壊46,663 棟、床上浸水123,103棟、床下浸水 261,017棟など (消防白書より)
23	昭和36年 (1961年)	昭和36年梅雨前 線豪雨	6月24日～7 月5日	全国で大雨被害。長野県伊 那谷で大きな被害。	死者302名、行方不明者55名、負傷者 1,320名、住家全壊1,758棟、半壊1,908 棟、床上浸水73,126棟、床下浸水341,236 棟など (消防白書より)
24	昭和34年 (1959年)	伊勢湾台風	9月26日～9 月27日	高潮による被害顕著、台風に よる死者・行方不明者最大。	死者4,697名、行方不明者401名、負傷者 38,921名、住家全壊40,838棟、半壊 113,052棟、床上浸水157,858棟、床下浸 水205,753棟など (消防白書より)
25	昭和34年 (1959年)	宮古島台風	9月15日～9 月18日	猛烈な風。宮古島で最大瞬間 風速64.8m/s。	死者47名、行方不明者52名、負傷者509 名、住家損壊16,632棟、浸水14,360棟な ど (理科年表より)
26	昭和34年 (1959年)	台風第7号	8月12日～8 月14日	中部地方で暴風と大雨による 被害大。	死者188名、行方不明者47名、負傷者 1,528名、住家全壊4,089棟、半壊10,139 棟、床上浸水32,298棟、床下浸水116,309 棟など (消防白書より)
27	昭和33年 (1958年)	狩野川台風	9月26日～9 月28日	狩野川が氾濫し大被害。首都 圏でもがけ崩れや浸水の被 害。	死者888名、行方不明者381名、負傷者 1,138名、住家全壊2,118棟、半壊2,175 棟、床上浸水132,227棟、床下浸水 389,488棟など (消防白書より)
28	昭和32年 (1957年)	諫早豪雨	7月25日～7 月28日	日降水量1000mmを超える局 地豪雨。	死者586名、行方不明者136名、負傷者 3,860名、住家全壊1,564棟、半壊2,802 棟、床上浸水24,046棟、床下浸水48,519 棟など (消防白書より)

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
29	昭和31年 (1956年)	発達した低気圧	4月17日～4 月18日	北海道で融雪洪水、漁船の 遭難、東北、関東で大火。	死者47名、行方不明者53名、住家全壊2 棟、半壊10棟、床上浸水1,087棟、床下浸 水1,320棟など（消防白書より）
30	昭和29年 (1954年)	洞爺丸台風	9月24日～9 月27日	日本海を発達しながら猛ス ピードで進む。青函連絡船 「洞爺丸」遭難。	死者1,361名、行方不明者400名、負傷者 1,601名、住家全壊8,396棟、半壊21,771 棟、床上浸水17,569棟、床下浸水85,964 棟など（消防白書より）
31	昭和29年 (1954年)	台風第12号	9月10日～9 月14日	枕崎に上陸、九州で大きな被 害。	死者107名、行方不明者37名、負傷者311 名、住家全壊2,162棟、半壊5,749棟、床 上浸水45,040棟、床下浸水136,756棟など (消防白書より)
32	昭和28年 (1953年)	台風第13号	9月22日～9 月26日	愛知県に上陸、東海、近畿、 北陸で大きな被害。	死者393名、行方不明者85名、負傷者 2,559名、住家全壊8,604棟、半壊17,467 棟、床上浸水144,300棟、床下浸水 351,575棟など（消防白書より）
33	昭和28年 (1953年)	南山城の大雨	8月11日～8 月15日	京都府・三重県境で局地豪 雨。	死者290名、行方不明者140名、負傷者 994名、住家全壊893棟、半壊765棟、床 上浸水6,222棟、床下浸水18,894棟など (消防白書より)
34	昭和28年 (1953年)	南紀豪雨	7月16日～7 月25日	和歌山県南部で豪雨、有田 川、日高川が氾濫、死者1000 人を超える。	死者713名、行方不明者411名、負傷者 5,819名、住家全壊7,704棟、半壊2,125 棟、床上浸水20,277棟、床下浸水66,202 棟など（消防白書より）
35	昭和28年 (1953年)	梅雨前線	6月23日～6 月30日	九州北部に大雨。	死者748名、行方不明者265名、負傷者 2,720名、住家全壊5,699棟、半壊11,671 棟、床上浸水199,979棟、床下浸水 254,664棟など（消防白書より）
36	昭和27年 (1952年)	梅雨前線	7月10日～7 月12日	近畿地方で大雨、大阪府で 大きな被害。	死者67名、行方不明者73名、負傷者101 名、住家全壊356棟、半壊238棟、床上浸 水20,733棟、床下浸水21,456棟など（消 防白書より）
37	昭和27年 (1952年)	ダイナ台風	6月22日～6 月24日	紀伊半島から東海・関東を通 過、静岡などで被害。	死者65名、行方不明者70名、負傷者28 名、住家全壊73棟、半壊89棟、床上浸水 4,020棟、床下浸水35,692棟など（消防 白書より）
38	昭和26年 (1951年)	ルース台風	10月10日～ 10月15日	鹿児島県で強風・高潮害、山 口県で土砂災害。	死者572名、行方不明者371名、負傷者 2,644名、住家全壊24,716棟、半壊47,948 棟、床上浸水30,110棟、床下浸水108,163 棟など（消防白書より）
39	昭和26年 (1951年)	低気圧と梅雨前 線	7月7日～7 月17日	梅雨前線が活発化、中部地 方以西で大雨。	死者162名、行方不明者144名、負傷者 358名、住家全壊630棟、半壊727棟、床 上浸水13,532棟、床下浸水89,766棟など (消防白書より)
40	昭和25年 (1950年)	ジェーン台風	9月3日～9 月4日	大阪湾で顕著な高潮、大阪・ 兵庫・和歌山などで大きな被 害。	死者398名、行方不明者141名、負傷者 26,062名、住家全壊19,131棟、半壊 101,792棟、床上浸水93,116棟、床下浸水 308,960棟など（消防白書より）
41	昭和24年 (1949年)	キティ台風	8月31日～9 月1日	関東地方に大きな被害。	死者135名、行方不明者25名、負傷者479 名、住家全壊3,733棟、半壊13,470棟、床 上浸水51,899棟、床下浸水92,161棟など (消防白書より)
42	昭和24年 (1949年)	ジュディス台風	8月13日～8 月18日	九州で大きな被害。	死者154名、行方不明者25名、負傷者213 名、住家全壊569棟、半壊1,966棟、床 上浸水33,680棟、床下浸水68,314棟など (消防白書より)

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
43	昭和24年 (1949年)	デブ台風	6月18日～6 月22日	全国で水害、愛媛県で漁船 多数遭難。	死者252名、行方不明者216名、負傷者 367名、住家全壊1,410棟、半壊4,005棟、 床上浸水4,627棟、床下浸水52,926棟など (消防白書より)
44	昭和23年 (1948年)	アイオン台風	9月15日～9 月17日	岩手県で甚大な被害。	死者512名、行方不明者326名、負傷者 1,956名、住家全壊5,889棟、半壊12,127 棟、床上浸水44,867棟、床下浸水75,168 棟など (消防白書より)
45	昭和23年 (1948年)	低気圧	9月11日～9 月12日	九州北部で大雨。	死者121名、行方不明者126名、負傷者 317名、住家全壊391棟、半壊872棟、床上 浸水246棟、床下浸水2,026棟など (消防 白書より)
46	昭和22年 (1947年)	カスリーン台風	9月14日～9 月15日	典型的な「雨台風」、利根川・荒 川決壊で東京など関東平野 が水浸し。群馬・栃木両県で 死者・行方不明者1,100名以 上。	死者1,077名、行方不明者853名、負傷者 1,547名、住家損壊9,298棟、浸水384,743 棟など (理科年表より)
47	昭和20年 (1945年)	阿久根台風	10月9日～ 10月13日	全国で暴風雨、兵庫県で大き な被害。	死者377名、行方不明者74名、負傷者202 名、住家損壊6,181棟、浸水174,146棟な ど (理科年表より)
48	昭和20年 (1945年)	枕崎台風	9月17日～9 月18日	終戦直後を襲った猛烈台風。	死者2,473名、行方不明者1,283名、負傷 者2,452名、住家損壊89,839棟、浸水 273,888棟など (理科年表より)

出典) 気象庁「災害をもたらした台風・大雨・地震・火山噴火等の自然現象の

とりまとめ資料」([http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saigai\\_link.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saigai_link.html))

④ 平成 22 年度に発生した主な災害の状況

①②③より、平成 22 年度に発生した主な災害として、「平成 22 年梅雨前線による大雨」「鹿児島県奄美地方における大雨」「平成 22 年 11 月からの大雪による被害」「霧島山（新燃岳）の噴火による被害」を取り上げ、その概況について以下の通り整理した。

図表 33 平成 22 年度に発生した主な災害の状況

発生した災害	概況	都道府県	人的被害				主な人的被害	住宅被害					避難指示	避難勧告	自主避難	その他	資料	
			死者	行方不明者	負傷者(重症)	負傷者(軽症)		全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水						
「平成 22 年梅雨前線による大雨」	<p>1. 気象の概況(気象庁情報)</p> <p>(1)大雨の概況</p> <p>6月中旬から7月中旬にかけて、梅雨前線は九州から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。九州から東北地方にかけての広い範囲で大雨となり、局地的に1時間に80ミリのを超える猛烈な雨が観測された。特に九州南部ではこの間の総雨量が1500ミリから2000ミリに達し、平年の2倍を超える雨量となった。</p> <p>なお、九州北部地方(山口県を含む)、四国地方、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方は7月17日頃、東北北部と東北部は7月18日頃、九州南部は7月20日頃、梅雨明けしたとみられる。</p> <p>(気象庁 平成 22 年 7 月 30 日 15:00)</p>	北海道							1	1	8					<p>○避難指示(消防庁調べ:8月25日17:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9県の14市町で避難指示</li> <li>・対象世帯数合計:10,456世帯</li> <li>・対象人数合計:26,447人</li> </ul> <p>○避難勧告(消防庁調べ:8月25日17:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・16県の74市町村で避難勧告</li> <li>・対象世帯数合計:205,187世帯</li> <li>・対象人数合計:469,502人</li> </ul> <p>○自主避難(消防庁調べ:8月25日17:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7県の8市町村で自主避難</li> <li>・世帯数合計:16世帯</li> <li>・人数合計:40人</li> </ul> <p>○土砂災害(国土交通省調べ:8月25日14:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・42道府県の200市町村で576件の土砂災害を確認</li> <li>・土石流等合計:139件</li> <li>・地すべり合計:21件</li> <li>・がけ崩れ合計:416件</li> </ul> <p>○土砂災害警戒情報の発表状況(国土交通省調べ:7月20日10:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月11日から7月1日までに土砂災害警戒情報が発表された市町村:14道県100市町村(地域)</li> <li>・7月2日から19日までに土砂災害警戒情報が発表された市町村:31都府県287市町村(地域)</li> </ul> <p>○停電戸数(経済産業省調べ:7月28日12:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国電力:約25,300戸復旧済み</li> <li>・中部電力:約77,000戸復旧済み</li> <li>・関西電力:約1,700戸復旧済み</li> <li>・東北電力:約1,800戸復旧済み</li> </ul> <p>○都市ガスの供給停止戸数(経済産業省調べ:7月28日14:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西部ガス:福岡県福岡市、北九州市で発生。復旧済み</li> <li>・山口合同ガス:山口県下関市で発生。復旧済み</li> <li>・宇部市ガス水道局:山口県宇部市で発生。復旧済み</li> </ul> <p>○断水戸数(厚生労働省調べ:7月20日17:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県:29戸復旧済</li> <li>・秋田県:375戸復旧済</li> <li>・石川県:19戸復旧済</li> </ul>		
		青森県									4	27						
		岩手県										22	62					
		宮城県											4					
		秋田県											2	97			○	
		山形県											9	47				
		福島県	1			1		・川俣町において、自宅裏山の土砂崩れによりガスボンベが倒れ、火災が発生し重傷を負った女性1名が入院先で死亡	1		6	27	88				○	
		茨城県											1	1				
		栃木県									3	1	4					
		群馬県										3	47					
		埼玉県					3				1	34	112					
		千葉県											1					
		東京都		1				・昭島市において、男性1名が行方不明				376	388					
		新潟県									1		7					
		石川県									2	1	26					
		長野県	1					・佐久市において、80歳代男性が川に流され死亡	3	1	5	18	255	○	○		○	
		岐阜県	4	2	1			・可児市において、鉄道高架下に車5台が取り残されて行方不明であった男性1名が遺体で見つかる ・八百津町において、自宅裏山が崩れ行方不明であった男性2名、女性1名が遺体で見つかる ・可児市において、鉄道高架下に車5台が取り残されており男性1名、女性1名が行方不明	4	3	8	75	380	○	○			
		静岡県							1				0					
		愛知県										10	76	○	○		○	
		三重県									1							
		滋賀県							1		2		6		○			
京都府										9	42							
大阪府										6	112							
兵庫県									1	5	59	○						
奈良県					1				1		9			○				
和歌山県										4	51			○	○			
鳥取県				1						1	15			○				
島根県	2	1	1			・松江市において、裏山の斜面が崩れ2名が死亡(女性1名、男性1名) ・津和野町において、82歳男性が行方不明		1	1		36	○						
岡山県	1		1			・鏡野町において、突風により飛ばされた資材が当たり63歳女性が死亡			6	1	74							

4 激甚災害(げきじんさいがい)とは、国民経済に著しい影響を及ぼす災害で、被災地域への財政援助や被災者への助成が特に必要となる大きな災害をいう。法律に基づいて激甚災害指定が行われる。激甚災害として指定された例としては、最近では今年の7月から8月にかけて、相次いで日本に上陸した台風10号によるものなどがある。

発生した災害	概況	都道府県	人的被害				主な人的被害	住宅被害					避難指示	避難勧告	自主避難	その他	資料
			死者	行方不明者	負傷者(重症)	負傷者(軽症)		全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水					
		広島県	5		1	5	・三原市において、川に流され女性が死亡 ・呉市において、土石流に巻き込まれ女性が死亡 ・世羅町において、土石流に巻き込まれ1名死亡 ・廿日市市において、行方不明であった女性1名が遺体で発見 ・庄原市において、行方不明であった女性1名が遺体で発見	19	34	71	251	1,396	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県:11戸 復旧済</li> <li>愛知県:69戸 復旧済</li> <li>和歌山県:7戸 復旧済</li> <li>岡山県:15戸 復旧済</li> <li>広島県:98戸 復旧済</li> <li>山口県:15,938戸 復旧済</li> <li>福岡県:49戸 復旧済</li> <li>佐賀県:70戸 復旧済</li> <li>鹿児島県:33戸 復旧済</li> </ul> ○社会福祉施設関係(厚生労働省調べ:8月25日12:00現在) <ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉施設の被災施設数:22施設</li> </ul> ○災害救助法の適用 <ul style="list-style-type: none"> <li>広島県は世羅町に災害救助法を適用(適用日:7月14日)</li> <li>広島県は呉市に災害救助法を適用(適用日:7月14日)</li> <li>山口県は山陽小野田市に災害救助法を適用(適用日:7月15日)</li> <li>広島県は庄原市に災害救助法を適用(適用日:7月16日)</li> </ul> ○激甚災害 <sup>4</sup> の指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>「平成22年6月11日から7月19日までの間の豪雨による災害」として激甚災害に指定し、農地等の災害復旧事業等に係る補助の特別措置等を適用(8月20日閣議決定、8月25日公布)</li> </ul> ○厚生労働省の対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>災害情報連絡室設置(7月16日16:30)</li> </ul> <避難所における被災者への対応> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所の生活環境の整備等について次の事項を山口県に通知。(7月15日及び17日)</li> <li>避難所について、仮設トイレ、暑さ対策、被災者に対するプライバシーの確保など、生活環境の改善対策を講じるとともに、高齢者、障害者等の災害時要援護者のニーズを把握し、必要な対応を行うこと。</li> <li>食品の給与について、メニューの多様化、適温食の提供、栄養バランスの確保、高齢者や病弱者に対する配慮等を必要に応じて行うこと。</li> </ul> <被災者等の健康に関する対応> <ul style="list-style-type: none"> <li>山口県看護協会から要請を受け、被災者の支援及びボランティアの健康管理等を目的として、労働者健康福祉機構山口労災病院より、災害支援ナース8名を被災地の支援に派遣した。(7月18日～27日)</li> </ul>	
		山口県					3	31	20	619	980	○	○	○			
		徳島県								1				○			
		香川県									1						
		愛媛県				1				5	2	139					
		福岡県				3		5	1	42	195	667		○	○		
		佐賀県								9	17	94		○			
		長崎県								6	25	71		○	○		
		熊本県				1				2	1	93					
		大分県								1	1	1					
		宮崎県		1			・都城市において、住宅裏山の土砂が流れ込み70歳男性が行方不明	2	2	3	42	87			○		
		鹿児島県	2			1	・霧島市において、家屋に土砂が流入し54歳女性が死亡 ・湧水町において、農業用水路へ流され76歳女性が死亡	3	1	8	21	134	○	○			
		沖縄県									3	5					
		合計	16	5	6	15	-	42	74	208	1,786	5,702	-	-	-		

発生した災害	概況	都道府県	人的被害				主な人的被害	住宅被害					避難指示	避難勧告	自主避難	その他	資料	
			死者	行方不明者	負傷者(重症)	負傷者(軽症)		全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水						
「鹿児島県奄美地方における大雨による被害」	<p>&lt;気象の概況(気象庁情報)&gt;  <b>【概要】</b>  10月18日から21日にかけて、前線が奄美地方に停滞し、南シナ海にあった台風第13号の東側で非常に湿った空気が前線付近に流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、奄美地方では、所により期間降水量が800ミリを超える記録的な大雨となった。  24時間降水量では、鹿児島県奄美市名瀬(ナゼ)で20日23時20分までに648.0ミリとなり、昭和51年(1976年)の観測開始以来最大を記録した。また、20日の日降水量は、名瀬(ナゼ)で622.0ミリとなり、明治36年(1903年)5月29日に観測した547.1ミリを超え、明治29年(1896年)の観測開始以来最大を記録した。なお、解析雨量<sup>5</sup>では、20日0時から24時までの24時間に700ミリを超える雨量となった。  1時間降水量では、鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋(コニヤ)で20日13時05分までに89.5ミリの猛烈な雨が、鹿児島県奄美市名瀬(ナゼ)で20日16時41分までに78.5ミリの非常に激しい雨が降った。また、解析雨量では、20日11時30分までと13時までのそれぞれ1時間に奄美市付近と大和村付近で、また、20日15時までの1時間に奄美市付近と瀬戸内町付近で、いずれも120ミリ以上の猛烈な雨となった。  この大雨による死者は、鹿児島県奄美市で2名、鹿児島県大島郡龍郷町で1名となった。また、奄美地方では、家屋の浸水や土砂災害が多数発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも大きな影響が出た。(被害の状況は内閣府などによる(平成22年10月24日15時30分現在)。  (気象庁 平成22年10月25日現在)</p> <p><b>【大雨の状況】</b>  18日から20日にかけて奄美地方付近に前線が停滞し、南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。  このため、20日は奄美地方の北部で雨雲が発達し、奄美大島に次々と流れ込んで大雨となった。  奄美地方では、北部を中心に19日明け方から激しい雨となり、20日昼前から昼過ぎにかけて奄美市付近、大和村付近、瀬戸内町付近で解析雨量が1時間120ミリ以上の記録的な大雨となった。  奄美市名瀬では、20日23時20分までの最大24時間降水量648.0ミリ、20日の日降水量622.0ミリとなり、ともに年間の観測史上1位の記録を更新した。  18日21時から20日24時までの総降水量は、奄美市名瀬で10月の平均の月降水量(238.7ミリ)の約3倍に匹敵する715.5ミリを観測したほか、瀬戸内町</p>	鹿児島県(奄美市)	2			1	・鹿児島県奄美市において、グループホームわだつみ苑において入所者2名死亡	6	339	11	62	351		○		○避難指示(消防庁調べ:11月26日16:00現在) ・2市町村で避難指示 ・対象世帯数合計:273世帯 ・対象人数合計:681人	<p>○「鹿児島県奄美地方における大雨による被害状況等について」(内閣府 平成22年12月1日11時00分現在)</p> <p>○「鹿児島県危機管理防災課、鹿児島県現地対策合同本部&lt;臨時報告&gt; 平成22年11月26日16:00現在」</p> <p>○土砂災害警戒情報の発表状況(国土交通省調べ:11月25日13:00現在)  ・鹿児島県の5市町村で56件の土砂災害を確認(奄美市、龍郷町、大和村、瀬戸内町、徳之島町)  ・土石流等合計:20件  ・地すべり合計:4件  ・がけ崩れ合計:32件</p> <p>○土砂災害警戒情報の発表状況(国土交通省調べ:11月25日13:00現在)  ・鹿児島県7市町村(地域)、計7市町村(地域)</p> <p>○停電戸数(経済産業省調べ:10月24日20:00現在)  ・九州電力:約20,500戸 全て復旧済み</p> <p>○都市ガスの供給停止戸数(経済産業省調べ:10月25日14:00現在)  ・被害なし</p> <p>○断水戸数(厚生労働省調べ:11月8日14:30現在)  ・鹿児島県:3,500戸 復旧済  (奄美市、大和村、瀬戸内町、龍郷町、伊仙町)</p> <p>○社会福祉施設関係(厚生労働省調べ:10月21日11:00現在)  ・社会福祉施設の被災施設数:8施設  ※移送が必要な施設入所者は、他施設にて受け入れ。</p> <p>○災害救助法の適用  ・鹿児島県は奄美市、大島郡龍郷町及び大島郡大和村に災害救助法を適用(適用日:10月20日)</p> <p>○激甚災害の指定  ・「平成22年10月18日から同月25日までの間の豪雨による鹿児島県奄美市等の区域に係る災害」として激甚災害に指定し、公共土木施設災害復旧事業等に関する特別の財政援助及び農地等の災害復旧事業等に係る補助の特別措置等を適用(11月19日閣議決定、11月25日公布予定)</p> <p>○厚生労働省の対応  ・災害情報連絡室を設置(10月20日19時00分)  &lt;避難所における被災者への対応&gt;  ・避難所の生活環境の整備等について次の事項を鹿児島県に通知(10月20日)</p>	
		鹿児島県(龍郷町)	1			1	・鹿児島県龍郷町において、倒壊した家屋の下敷きとなり女性1名死亡	3	125		24	221	○	○		○避難勧告(消防庁調べ:11月26日16:00現在) ・5市町村で避難勧告 ・対象世帯数合計:1,365世帯 ・対象人数合計:2,819人		
		鹿児島県(大和村)							1	15		14	93		○			○土砂災害(国土交通省調べ:11月25日13:00現在) ・鹿児島県の5市町村で56件の土砂災害を確認(奄美市、龍郷町、大和村、瀬戸内町、徳之島町) ・土石流等合計:20件 ・地すべり合計:4件 ・がけ崩れ合計:32件
		鹿児島県(宇検村)										5	4		○			○土砂災害警戒情報の発表状況(国土交通省調べ:11月25日13:00現在) ・鹿児島県7市町村(地域)、計7市町村(地域)
		鹿児島県(瀬戸内町)										14	97					○停電戸数(経済産業省調べ:10月24日20:00現在) ・九州電力:約20,500戸 全て復旧済み
		鹿児島県(徳之島町)											1		○			○都市ガスの供給停止戸数(経済産業省調べ:10月25日14:00現在) ・被害なし
		鹿児島県(天城町)													○			○断水戸数(厚生労働省調べ:11月8日14:30現在) ・鹿児島県:3,500戸 復旧済 (奄美市、大和村、瀬戸内町、龍郷町、伊仙町)
		合計			3			2		10	479	11	119	767	-	-		-

<sup>5</sup> 解析雨量とは、気象レーダーにより観測された雨の強さを、アメダス等の雨量計により観測された雨量を用いて解析・補正したもの。

発生した災害	概況	都道府県	人的被害				主な人的被害	住宅被害					避難指示	避難勧告	自主避難	その他	資料
			死者	行方不明者	負傷者(重症)	負傷者(軽症)		全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水					
	古仁屋で 362.5 ミリ、伊仙で 278.0 ミリ、天城で 249.5 ミリ、奄美市笠利で 212.0 ミリの大雨となった。 (鹿児島地方気象台・名瀬測候所 平成 22 年 10 月 21 日現在)															<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所について <ul style="list-style-type: none"> <li>● 仮設トイレ、暑さ寒さ対策、被災者に対するプライバシーの確保など、生活環境の改善対策を講じるとともに、高齢者、障害者等の災害時要援護者のニーズを把握し、必要な対応を行うこと。</li> <li>● 食品の給与について、メニューの多様化、適温食の提供、栄養バランスの確保、高齢者や病弱者に対する配慮等を必要に応じて行うこと等。</li> </ul> </li> <li>・ 人工透析、難病患者関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時の人工透析の提供体制及び難病患者等への医療の確保体制について、鹿児島県に通知(10月21日)</li> </ul> </li> <li>・ エコノミークラス症候群 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「鹿児島県奄美地方の集中豪雨による被災者のいわゆる「エコノミークラス症候群」の予防について」を鹿児島県に情報提供し、関係機関等への周知を依頼(10月21日)</li> </ul> </li> <li>・ 被災視聴覚障害者等への情報・コミュニケーション支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難所等における視聴覚障害者等に対する情報・コミュニケーション支援について鹿児島県に通知(10月22日)</li> </ul> </li> <li>・ 食中毒等の感染症発生予防 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難所における食中毒等の感染症発生予防上、留意すべき点として、手洗いの励行、食料の保存時の温度管理、調理時の加熱処理、トイレ及び排泄物の衛生的な管理等を鹿児島県に通知(10月26日)</li> </ul> </li> <li>・ 政府現地連絡対策室へ職員1名を派遣(10月27日)</li> </ul>	

発生した災害	概況	都道府県	人的被害				主な人的被害	住宅被害					避難指示	避難勧告	自主避難	その他	資料	
			死者	行方不明者	負傷者(重症)	負傷者(軽症)		全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水						
「平成22年11月からの大雪による被害」	<p>&lt;大雪の状況&gt; 12月下旬以降、寒気が日本付近に南下しやすい気象状況が続き、数回にわたって強い冬型の気圧配置となったため各地で大雪となった。特に、年末から年始にかけては、西日本を中心に強い寒気が流入し、西日本の日本海側等の一部では記録的な大雪となった。また、1月半ばと月末にも強い寒気が南下し、北日本から西日本にかけての日本海側で大雪となった。</p> <p>これまでに全国の24地点で、積雪の深さの観測史上1位を更新した。(積雪の深さの観測史上1位を更新した地点のある道府県):北海道、秋田県、岩手県、山形県、福島県、富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、岡山県、広島県、島根県、鳥取県</p> <p>北日本から西日本にかけての日本海側は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雪または雨の降る日が多いが、16日は晴れる所が多い。最高・最低気温ともに、北日本は21日にかけて平年並か平年より高く、東日本、西日本は15日にかけては平年並か平年より低く、16日から21日は平年並か平年より高い日が多い見込み。</p> <p>その後は2月下旬にかけて、全国的に平年より気温が高く、日本海側の降雪量は平年より少ない可能性が大きい。(気象庁調べ:2月14日現在)</p>	北海道	21		96	132	※死亡状況 ・65歳未満:43人 ・65歳以上:79人  ○雪崩による死者:6人 ・65歳未満:6人 ・65歳以上:なし  ○屋根の雪下ろし等、除雪作業中の死者:95人 ・65歳未満:31人 ・65歳以上:64人  ○落雪等による死者:15人 ・65歳未満:4人 ・65歳以上:11人  ○倒壊した家屋の下敷きによる死者:1人 ・65歳未満:1人 ・65歳以上:なし  ○その他:5人 ・65歳未満:1人 ・65歳以上:4人			1						○集落雪崩災害(国土交通省調べ:2月14日11:00現在) ・2月5日7時頃、山形県鶴岡市にて雪崩が発生し、家屋が被災(一部損壊1戸)  ○停電戸数(経済産業省調べ:2月14日13:00現在) ・東北電力:約115,900戸 復旧済み ・北陸電力:約7,300戸 復旧済み ・関西電力:約1,040 復旧済み ・中国電力:約261,000戸 復旧済み  ○都市ガスの供給停止戸数(経済産業省調べ:2月14日13:00現在) ・被害なし  ○断水戸数(経済産業省調べ:2月14日13:00現在) ・青森県:40戸 復旧済 ・岩手県:190戸 復旧済 ・秋田県:1,691戸 復旧済 ・岐阜県:171戸 復旧済 ・島根県:1,957戸 復旧済 ・広島県:341戸 復旧済 ・山口県:853戸 復旧済 ・大分県:200戸 復旧済 ・福岡県:562戸 復旧済 ・熊本県:2戸 復旧済  ○社会福祉施設関係(厚生労働省調べ:7月26日13:00現在) ・社会福祉施設の被災施設数:13施設  ○災害救助法の適用 ・新潟県は1月27日に長岡市、小千谷市、十日町市及び魚沼市に、1月30日に上越市及び東蒲原郡阿賀町に、1月31日に柏崎市、妙高市及び南魚沼市に災害救助法を適用	○「平成22年11月からの大雪による被害状況等について」(内閣府平成23年2月14日20時00分現在)	
		青森県	3		46	67					8							
		岩手県	4		14	21					10		2					
		宮城県			1	1												
		秋田県	19		92	134					91	3	10					
		山形県	15		87	108					20		8					
		福島県	4		5	16					6		12					
		茨城県				1												
		群馬県			4	2												
		神奈川県			1													
		新潟県	25		129	156				2	1	23	1	11				
		富山県	7		15	57				1	4	14	1	3				
		石川県	5		6	12												
		福井県	7		24	35				2	2	10	1	6				
		山梨県			1													
		長野県	2		19	21								1				
		岐阜県	2		3	24								2				
		滋賀県			1	5						22						
		京都府			1							1	19					
		大阪府				1												
		兵庫県	1		10	10							39					
奈良県										3								
鳥取県	6		1	1					1	2								
島根県			4	6					1	66								
広島県	1		4	3						7								
山口県				3														
愛媛県				1														
高知県				1						1								
合計			122※		564	819	5	10	342	6	55	-	-	-				



発生した災害	概況	都道府県	人的被害				主な人的被害	住宅被害					避難指示	避難勧告	自主避難	その他	資料
			死者	行方不明者	負傷者(重症)	負傷者(軽症)		全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水					
「霧島山(新燃岳)の噴火による被害」	<p>&lt;火山活動の状況&gt; 霧島山(新燃岳)では、14日05時07分に爆発的噴火が観測されるなど、活発な活動が現在も継続している。 現在、噴火警戒レベル3(入山規制)を発表している。 ○これまでの活動状況等 新燃岳では、1月26日以降活発な活動を続けており、爆発的噴火が2月14日14時までに計11回発生した。噴火に伴う降灰が、鹿児島県霧島市、宮崎県都城市など山の南東側を中心に広い範囲で観測されている。 現地調査によると、2月1日7時54分に発生した爆発的噴火では、大きな噴石が新燃岳火口から3kmをこえて飛散していることを確認した。 2月3日、火山噴火予知連絡会拡大幹事会が開催され、霧島山の新燃岳の噴火活動に関する見解が次のとおり発表された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>霧島山(新燃岳)では、活発な噴火活動が続いており、当分の間は、現在と同程度の溶岩を吹き飛ばす爆発的な噴火を繰り返すと考えられる。</li> <li>18世紀のマグマ噴火では、2年程度噴火活動が続いています。今回の火山活動は、約300年ぶりの本格的なマグマ噴火であり、活動の推移を注意深く見守る必要がある。</li> </ul> <p>(気象庁情報:2月14日現在)</p> <p>【噴火警報の発表状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月26日18:00 噴火警報発表(火口周辺警報)噴火警戒レベル2(火口周辺規制) → レベル3(入山規制)</li> <li>1月31日01:35 噴火警報発表(火口周辺警報)レベル3継続 ※対象地域の拡大、警戒範囲の拡大(入山規制2km→3km)</li> <li>2月1日11:20 噴火警報発表(火口周辺警報)レベル3継続 ※対象地域の拡大、警戒範囲の拡大(入山規制3km→4km)</li> <li>対象市町村等 鹿児島県:霧島市 宮崎県:小林市、高原町、えびの市、都城市</li> <li>防災上の警戒事項 ①火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石等に警戒が必要 ②火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要 ③風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に注意が必要 ④大きな空振に注意が必要 ⑤降雨時には、泥流や土石流に注意が必要</li> </ul>	宮崎県(高原町) 宮崎県(都城市) 鹿児島県(霧島市) 合計			2 1 2	20 1 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれも肺の除去作業中に誤ってはしご等から落下したものの</li> <li>空振により破損した窓ガラスで負傷したものの</li> </ul>								○	<p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎県都城市:空振による店舗自動ドア破損、噴石による自動車ガラス破損(2件)</li> <li>高原町:噴石による自動車ガラス破損(3件)</li> <li>小林市:噴石による民家の太陽光パネル、プラスチック製屋根、自動車ガラス等が破損</li> <li>鹿児島県霧島市:空振による窓ガラス破損等(99件)</li> </ul> <p>○避難指示(消防庁調べ:2月14日18:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> <p>○避難勧告(消防庁調べ:2月14日18:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎県高原町:513世帯、1,158人(うち継続中:27世帯、73人)</li> </ul> <p>○避難準備情報(消防庁調べ:2月14日18:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2月10日19:00 宮崎県都城市西岳地区及び山田地区(一部)の1,649世帯3,544人に避難準備情報発表→2月11日0:00解除</li> <li>2月13日17:25 宮崎県都城市夏尾町、御池町、吉之元町、高野町(一部)及び山田町(一部)の1,148世帯2,523人に避難準備情報発表→2月14日8:04解除</li> </ul> <p>○避難所への避難者数(消防庁調べ:2月14日15:00現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎県都城市:なし</li> <li>高原町:12名</li> </ul> <p>○厚生労働省の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害情報連絡室を設置(1月31日1:40)</li> <li>宮崎県及び鹿児島県等に対し、「新燃岳噴火に伴う保健所等における健康相談体制について」を通知(2月3日)。</li> <li>宮崎県及び鹿児島県に対し、「新燃岳噴火」により被災した要介護者等への対応について」を通知(2月4日)。</li> </ul>	○「霧島山(新燃岳)の噴火による被害状況等について」(内閣府 平成23年2月14日20時00分現在)

### (3) 事例分析

平成 22 年度中に発生した自然災害のうち、被害規模等の観点から以下の 2 事例を取り上げて事例分析を行った。

- ①事例 1 : 「平成 22 梅雨前線による大雨」
- ②事例 2 : 「鹿児島県奄美地方における大雨」

① 事例1：風水害「平成22年梅雨前線による大雨」

ア) 災害発生日

- ・ 6月中旬から7月中旬

イ) 気象と大雨の概況（気象庁情報）

6月中旬から7月中旬にかけて、梅雨前線は九州から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。九州から東北地方にかけての広い範囲で大雨となり、局地的に1時間に80ミリを超える猛烈な雨が観測された。特に九州南部ではこの間の総雨量が1500ミリから2000ミリに達し、平年の2倍を超える雨量となった。

なお、九州北部地方（山口県を含む）、四国地方、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方は7月17日頃、東北北部と東北南部は7月18日頃、九州南部は7月20日頃、梅雨明けしたとみられる。

【平成22年6月17日から23日にかけての梅雨前線に伴う鹿児島県の大雨】

17日に九州の南海上にあった梅雨前線は18日にかけて九州北部に北上した。その後、19日には九州南部に南下し、23日にかけて停滞した。この梅雨前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発化した。

鹿児島県では17日14時頃から激しい雨が降り始めた。特に19日明け方から朝にかけて薩摩半島や大隅半島では猛烈な雨となり、07時55分には肝付町前田で75.0ミリ、08時07分には南大隅町佐多で116.0ミリの1時間降水量を観測し、共に観測史上1位の記録となった。その後も鹿児島県内では、22日夜遅くにかけて断続的に非常に激しい雨が降り、17日11時から23日17時までの総降水量は、薩摩川内市八重山で782.5ミリ、鹿屋市輝北で730.0ミリ、鹿屋市吉ヶ別府で720.0ミリとなった他、広い範囲で6月の月降水量の平年値を超える大雨となった。

（平成22年6月24日 鹿児島地方気象台）

【平成22年7月2日から3日にかけての宮崎県の大雨】

7月2日から3日にかけて九州南部では太平洋高気圧の周辺部となり、湿った空気の流れ込みにより大気の状態が非常に不安定となった。このため、宮崎県南部では2日夜遅くから3日朝にかけて大雨となった。

宮崎県南部では、3日未明から明け方にかけて猛烈な雨となり、02時までの1時間に都城市付近で約120ミリ（解析雨量）、02時21分までの1時間にえびの（えびの市）で110ミリの雨を観測するなど、記録的な大雨となった。7月2日から3日の総降水量は、えびの（えびの市）で445.0ミリ、都城（都城市）で250.5ミリ、串間（串間市）で227.5ミリ、深瀬（日南市）で201.5ミリを観測するなど、宮崎県南部で200ミリを超えた。

（平成22年7月5日 宮崎地方気象台）

### 【平成 22 年 7 月 2 日から 4 日にかけての鹿児島県の大雨】

2 日から 3 日にかけて九州南部では太平洋高気圧の周辺部となり、湿った空気の流れ込みにより大気の状態が非常に不安定となった。このため、薩摩・大隅地方では 2 日夜から 3 日朝にかけて大雨となった。また、4 日には梅雨前線が九州南部まで南下したため、種子島・屋久島地方では 3 日朝から昼過ぎにかけてと 4 日未明に大雨となった。

薩摩・大隅地方では、2 日夜遅くから局地的に激しい雨となり、3 日未明から明け方にかけて多い所で 1 時間に 100 ミリを超える猛烈な雨が降った。05 時 00 分には霧島市北部付近で 1 時間に 120 ミリ(解析雨量)を超える記録的な大雨となった。

種子島・屋久島地方でも、3 日朝から激しい雨となり、09 時 30 分には南種子町付近で 1 時間に約 100 ミリ(解析雨量)の猛烈な雨が降った。南種子町上中では、3 日 09 時 14 分までの 1 時間降水量 115.0 ミリを観測し観測史上 1 位の記録を更新した。3 日昼過ぎには強雨域は東へ抜け、雨は小康状態となったが、4 日未明には、再び南種子町付近で 1 時間に約 110 ミリ(解析雨量)の猛烈な雨となり、南種子町上中では 4 日 05 時 40 分までの 24 時間降水量 347.0 ミリを観測し、観測史上 1 位の記録を更新した。

2 日 05 時から 4 日 24 時までの総雨量は、南種子町上中で 372.0 ミリ、鹿屋市吉ヶ別府で 261.0 ミリ、霧島市溝辺で 244.5 ミリを観測したほか、志布志と肝付町内之浦でも 200 ミリ以上の大雨を観測した。

(平成 22 年 7 月 5 日 鹿児島地方气象台)

### 【平成 22 年 7 月 10 日～7 月 16 日にかけての梅雨前線による大雨】

7 月 10 日から 16 日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、西日本から東日本にかけて大雨となった。

この期間の雨量は、佐賀県佐賀市北山(ホザン)で 613.5 ミリと 600 ミリを超えたほか、福岡県、佐賀県、長崎県、山口県、広島県、高知県、岐阜県、長野県で 500 ミリを超えた。福岡県北九州市小倉南区頂吉(カグメシ)や広島県呉市呉(ク)など多くの地点で 7 月の月降水量平年値を上回った。

24 時間雨量では、岐阜県加茂郡八百津町伽藍(ガラン)で 15 日 23 時 30 分までに観測史上 1 位となる 239.0 ミリとなったほか、広島県、島根県、福岡県でも観測史上 1 位を更新した地点があった。

また、1 時間雨量では、徳島県海部郡美波町日和佐(ヒワサ)で 13 日 19 時 23 分までに 108.5 ミリ、岐阜県多治見市多治見(タジミ)で 15 日 19 時 12 分までに 83.5 ミリの猛烈な雨が降り観測史上 1 位を更新したほか、広島県庄原市庄原(ショウバラ)では 16 日 17 時 43 分までに観測史上 1 位を更新する 64.0 ミリとなるなど、西日本から東日本の広い範囲で非常に激しい雨が降った。

この大雨により広島県・島根県・岐阜県において死者・行方不明者が 14 名となった。また、九州北部地方、中国地方、東海地方などを中心に各地で浸水害や土砂災害が発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも影響が出た。(被害の状況は総務省消防庁などによる(平成 22 年 7 月 20 日 14 時現在)) (平成 22 年 7 月 20 日 気象庁)

図表 34 降雨の状況 (6月11日から7月19日まで) (速報値)

観測地点		1時間降水量	
宮崎県	えびの市えびの	116.0 ミリ	*
宮崎県	日南市深瀬	115.0 ミリ	*
鹿児島県	鹿屋市吉ヶ別府	110.0 ミリ	*
宮崎県	えびの市加久藤	108.5 ミリ	*
鹿児島県	鹿屋市輝北	86.0 ミリ	

観測地点		24時間降水量	
宮崎県	えびの市えびの	441.0 ミリ	
宮崎県	日南市深瀬	424.5 ミリ	
鹿児島県	鹿屋市吉ヶ別府	415.0 ミリ	
宮崎県	えびの市加久藤	360.5 ミリ	
鹿児島県	鹿屋市輝北	347.0 ミリ	*

観測地点		6月11日からの総降水量	平年比
宮崎県	えびの市えびの	2,226.0 ミリ	185%
宮崎県	日南市深瀬	1,650.0 ミリ	251%
鹿児島県	鹿屋市吉ヶ別府	1,629.5 ミリ	231%
宮崎県	えびの市加久藤	1,564.0 ミリ	209%
鹿児島県	鹿屋市輝北	1,545.5 ミリ	251%

\*印は観測史上1位を更新した地点

ウ) 災害の様子

a. 人的・住家被害の状況

図表 35 人的・住家被害の状況

都道府県名	人的被害				住家被害					非住家被害		崖くずれ (箇所)
	死者 (人)	行方不明者 (人)	負傷者		全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部破損 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)	公共建物 (棟)	その他 (棟)	
			重症 (人)	軽症 (人)								
北海道							1	1	8			1
青森県								4	27			
岩手県								22	62		7	15
宮城県									4			
秋田県								2	97			28
山形県								9	47		28	6
福島県	1		1		1		6	27	88	3	20	5
茨城県								1	1		3	
栃木県							3	1	4		1	3
群馬県								3	47			1
埼玉県				3			1	34	112	1		7
千葉県									1			
東京都		1						376	388	2	112	1
神奈川県												1
新潟県							1		7		15	2
富山県												1
石川県							2	1	26			
山梨県												1
長野県	1				3	1	6	18	255	1	4	5
岐阜県	4	2	1		4	3	88	75	380		9	343
静岡県					1							
愛知県								10	76			
三重県							1				2	
滋賀県					1		2		6		1	6
京都府								9	42			63
大阪府								6	112		1	14
兵庫県							1	5	59			
奈良県				1			1		9			
和歌山県								4	51			34
鳥取県			1					1	15			14
島根県	2	1	1			1	1		36		10	56
岡山県	1		1				6	1	74		18	3
広島県	5		1	5	19	34	71	251	1,396			
山口県					3	31	20	619	980		12	89
徳島県							1					6
香川県									1			
愛媛県				1			5	2	139	1	9	51
福岡県				3	5	1	42	195	667	15	111	568
佐賀県							9	17	94		21	49
長崎県							6	25	71		2	57
熊本県				1			2	1	93		1	
大分県							1		1		1	3
宮崎県		1			2	2	3	42	87		3	
鹿児島県	2			1	3	1	8	21	134		26	391
沖縄県								3	5			4
計	16	5	6	15	42	74	288	1,786	5,702	23	417	1,828

出典)平成22年梅雨期(6月11日から7月19日まで)における大雨による被害状況等について  
平成22年9月9日(木)17時00分現在 消防庁

b. 主な人的被害

(1) 死者：16名

図表 36 主な人的被害（死者）

都道府県	市区町村	被害状況
福島県	川又町	・ 自宅裏山の土砂崩れによりガスボンベが倒れ、火災が発生し重傷を負った女性1名が入院先で死亡
長野県	佐久町	・ 80歳代男性が川に流され死亡
岐阜県	可児市	・ 鉄道高架下に車5台が取り残されて行方不明であった男性1名が遺体で発見
	八百津町	・ 自宅裏山が崩れ行方不明であった男性2名、女性1名が遺体で発見
島根県	松江市	・ 裏山の斜面が崩れ2名が死亡（女性1名、男性1名）
岡山県	鏡野町	・ 突風により飛ばされた資材が当たり63歳女性が死亡
広島県	呉市	・ 土石流に巻き込まれ女性が死亡
	三原市	・ 川に流され女性が死亡
	庄原市	・ 行方不明であった女性1名が遺体で発見
	廿日市市	・ 行方不明であった女性1名が遺体で発見
	世羅町	・ 土石流に巻き込まれ1名死亡
鹿児島県	霧島市	・ 家屋に土砂が流入し54歳女性が死亡
	湧水町	・ 農業用水路へ流され76歳女性が死亡

出典)平成22年梅雨期(6月11日から7月19日まで)における大雨による被害状況等について 平成22年9月9日(木)17時00分現在 消防庁

(2) 行方不明者：5名

図表 37 主な人的被害（行方不明者）

都道府県	市区町村	被害状況
東京都	昭島市	・ 男性1名が行方不明
岐阜県	可児市	・ 鉄道高架下に車5台が取り残されており男性1名、女性1名が行方不明
島根県	津和野町	・ 82歳男性が行方不明
宮崎県	都城市	・ 住宅裏山の土砂が流れ込み70歳男性が行方不明

出典)平成22年梅雨期(6月11日から7月19日まで)における大雨による被害状況等について 平成22年9月9日(木)17時00分現在 消防庁

エ) 避難の状況

a. 避難指示

- ・ 9 県 14 市町で避難指示があった。

図表 38 避難指示を出した市町村

都道府県名	市町村名	市町村数	延べ対象世帯数	延べ対象人数
			(世帯)	(人)
長野県	飯田市	1	4	16
岐阜県	可児市、八百津町	2	697	1,824
愛知県	犬山市	1	237	895
兵庫県	南あわじ市	1	2	6
島根県	松江市	1	7	21
広島県	三原市、世羅市	2	4,721	11,958
山口県	下関市、防府市、山陽小野田市	3	4,221	10,493
福岡県	北九州市、桂川町	2	561	1,217
鹿児島県	湧水町	1	6	17
合 計		14	10,456	26,447

出典)平成22年梅雨期(6月11日から7月19日まで)における大雨による被害状況等について  
平成22年9月9日(木)17時00分現在 消防庁



b. 避難勧告

- ・ 16 県 74 市町村で避難勧告があった。

図表 39 避難勧告を出した市町村

都道府県名	市町村名	市町村数	延べ対象世帯数	延べ対象人数
			(世帯)	(人)
秋田県	湯沢市	1	10	34
福島県	郡山市	1	13	14
長野県	上田市、筑北村、青木村	3	13	28
岐阜県	御嵩町、白川町、多治見市、八百津町、可児市、美濃加茂市	6	43,565	116,360
愛知県	小牧市、犬山市	2	963	1,935
滋賀県	大津市、甲賀市	2	3	8
和歌山県	和歌山市	1	4	15
島根県	隠岐の島町、益田市、美郷町、江津市	4	2,889	8,030
広島県	広島市、三原市、福山市、呉市、大竹市、東広島市、三次市、庄原市、安芸高田市、世羅町	10	53,341	128,594
山口県	山口市、宇部市、下関市、萩市、防府市、岩国市、光市、美弥市、周南市、山陽小野田市	10	25,408	60,592
徳島県	三好市	1	2	3
福岡県	北九州市、福岡市、直方市、飯塚市、行橋市、筑紫野市、大野城市、福津市、嘉麻市、朝倉市、那珂川町、志免町、大刀洗町、小竹町、岡垣町、桂川町、向春町、川崎町、福智町	19	72,853	137,013
佐賀県	神埼市、多久市、吉野ヶ里町、唐津市、みやき町	5	3,682	11,594
長崎県	波佐見町	1	1	2
宮崎県	都城市、串間市	2	925	2,050
鹿児島県	鹿児島市、垂水市、姶良市、南大隈町、肝付町、霧島市	6	1,515	3,230
合 計		74	205,187	469,502

出典)平成22年梅雨期(6月11日から7月19日まで)における大雨による被害状況等について  
平成22年9月9日(木)17時00分現在 消防庁

c. 自主避難

- ・ 7 県 8 市町村で自主避難があった。

図表 40 自主避難

都道府県名	市町村名	市町村数	延べ対象世帯数	延べ対象人数
			(世帯)	(人)
長野県	飯田市	1	2	7
愛知県	豊根村、小牧市	2	8	19
奈良県	吉野町	1	1	3
和歌山県	和歌山市	1	2	3
広島県	呉市	1	3	8
山口県	美弥市	1	0	0
福岡県	飯塚市	1	0	0
合 計		8	16	40

出典)平成22年梅雨期(6月11日から7月19日まで)における大雨による被害状況等について  
平成22年9月9日(木)17時00分現在 消防庁

オ) その他の被害の状況

a. ライフライン

1) 停電戸数

図表 41 停電戸数

区分	管内	延べ停電戸数	現況
電力	中国電力	約 25,300 戸	復旧済み
	中部電力	約 77,000 戸	復旧済み
	関西電力	約 1,700 戸	復旧済み
	九州電力	約 1,800 戸	復旧済み

経済産業省調べ：7月28日 12:00 現在

2) 都市ガスの供給停止戸数

図表 42 都市ガスの供給停止戸数

管内	発生地区	現況
西武ガス	福岡県福岡市、北九州市	復旧済み
山口合同ガス	山口県下関市	復旧済み
宇部市ガス水道局	山口県宇部市	復旧済み

経済産業省調べ：7月28日 14:00 現在

3) 断水戸数

図表 43 断水戸数

区分	管内	総断水戸数	現況
水道	岩手県	29 戸	復旧済み
	秋田県	375 戸	復旧済み
	石川県	19 戸	復旧済み
	岐阜県	11 戸	復旧済み
	愛知県	69 戸	復旧済み
	和歌山県	7 戸	復旧済み
	岡山県	15 戸	復旧済み
	広島県	98 戸	復旧済み
	山口県	15,951 戸	復旧済み
	福岡県	49 戸	復旧済み
	佐賀県	70 戸	復旧済み
	鹿児島県	33 戸	復旧済み

厚生労働省調べ：7月20日 17:00 現在

4) 文教施設等

図表 44 文教施設等

区 分	被災施設数
国立学校施設	9
公立学校施設	76
社会教育・体育、文化施設等	33
文化財等	42
計	160

厚生労働省調べ：8月25日 13:00 現在

5) 社会福祉施設等

図表 45 社会福祉施設等

区分	被災施設数
社会福祉施設	22

厚生労働省調べ：8月25日 12:00 現在

カ) 政府の主な対応

a. 災害応急体制の整備

- ・ 総理指示（7月16日 16:25）

引き続き、気象状況について厳重な監視を行い、国民に対し大雨等に関する防災情報を的確に提供し、関係省庁一体となって、避難等の措置や被災者の救助等の災害対応に万全を期すこと。

- ・ 情報連絡室設置（7月16日 16:30）

b. 災害救助法関係

1) 災害救助法の適用

- ・ 広島県は世羅町に災害救助法を適用（適用日：7月14日）
- ・ 広島県は呉市に災害救助法を適用（適用日：7月14日）
- ・ 山口県は山陽小野田市に災害救助法を適用（適用日：7月15日）
- ・ 広島県は庄原市に災害救助法を適用（適用日：7月16日）

2) 被災者生活再建支援制度の拡充

- ・ 甚大な住宅被害が広域的に散在している場合にも対応できるよう、被災者生活再建支援法施行令を改正し、適用要件を拡充（8月31日閣議決定、9月3日公布）

3) 被災者生活再建支援法の適用

- ・ 長野県は飯田市に被災者生活再建支援法に基づく支援金支給制度を適用（適用日：7月14日）
- ・ 岐阜県は八百津町に被災者生活再建支援法に基づく支援金支給制度を適用（適用日：7月15日）
- ・ 山口県は山陽小野田市及び美祢市に被災者生活再建支援法に基づく支援金支給制度を適用（適用日：7月15日）
- ・ 広島県は庄原市及び呉市に被災者生活再建支援法に基づく支援金支給制度を適用（適用日：呉市7月14日、庄原市7月16日）
- ・ 鹿児島県は曾於市に被災者生活再建支援法に基づく支援金支給制度を適用（適用日：7月3日）